

議会報告 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 733-4
電兼 FAX 49-6373



令和元年六月定例会

六月三日から十九日までの日程で定例会が開会されました。市長の施政方針演説では春の叙勲者紹介、今年度から始まる企業チャレンジの紹介などがありました。

企業チャレンジは地域と企業が協働し雲南市の社会課題の解決に取り組むものです。㈱竹中工務店、ヤマハ発動機㈱、NPO法人ETICと連携協定されました。

◇竹中工務店ⅡITを活用し地域にある豊かさに関わる情報を健康で豊かなコミュニティづくりに結び付ける取り組み。建築から健康がコンセプト。

◇ヤマハ発動機Ⅱ小型電動車を利用し周辺地域の交通事情改善に向けた実証実験。

◇ETICⅡ持続可能な起業支援。

㈱竹中工務店は地域自主組織やコミュニティナーズなど、これまで雲南市が取り組んできた実績に着目したものです。

議決事項では、三月補正予算、六月補正予算などが上程され、六月補正は賛成多数、その他議案は全会一致で可決しました。そのほか、議員発議で「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」「視覚障害有権者への選挙公報の充実を求める意見書」が可決されました。

六月議会の一般質問

六月議会では十三名の議員が一般質問

を行いました。取り上げられた項目で一番多かった項目は「学校教育・幼児教育無償化」で九名の議員が取り上げました。消費増税に併せ一〇月から実施される幼児教育無償化や教室のエアコン設置など全国的に話題となった項目です。

そのほか六月議会で特徴的だった項目として四月に行われた統一地方選挙にかかわるものでした。保守分裂となった知事選挙の影響が今後の市政運営に影響を及ぼさないか、開票事務作業が遅いのではないかな等の質問もありました。

中央学校給食センター完成

平成三十年から工事が進められてきた雲南市中央学校給食センター（木次町山方）の竣工式が七月十七日に行われます。

老朽化した木次・三

刀屋・吉田・掛合の

各給食センターを統

合する施設で同学校

区内の小中学校の給

食（約1,800食）を

提供します。総工

費15億8千万円（厨

房機器、既存解体費

用を含む）をかけて

建設されました。二

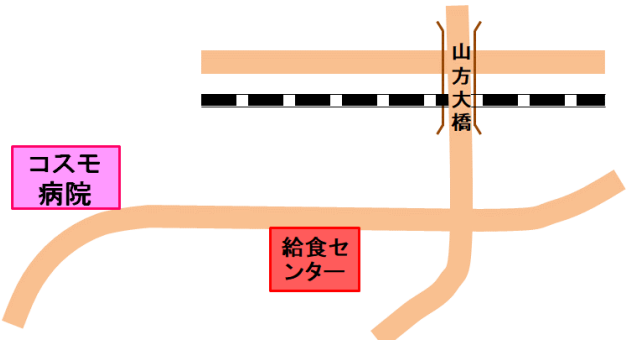
学期から配食予定で

す。なお、加茂と大

東の給食センターは

今まで通りで変更は

ありません。



春の叙勲

三名の方が春の瑞宝双光章の栄に浴されました。誠にめでとうございます。長年のご労苦に感謝するとともにお祝い申し上げます。

高橋日出男氏（加茂） 消防功労
三木弘道氏（大東） 更生保護功労
安食好吉氏（三刀屋） 消防功労

文科大臣表彰受賞

十五年前から大東町で子供の読書支援活動が続けてこられた「こぐまちゃんくらぶ」ボランティアが文部科学大臣表彰を受けられました。子供の読書活動実践団体として長年取り組まれた実績が認められたものです。

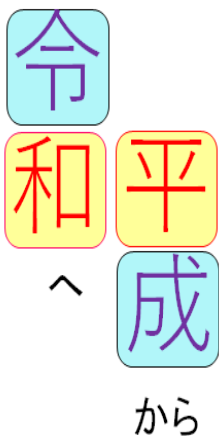


左から狩野さん、飛田さん、山本さん、森山さん、速水市長

受賞されたのは代表者の森山友恵さん、山本恵美子さん、飛田貞子さん、狩野玲子さんです。誠にめでとうございます。

本市の読書支援で文科大臣表彰は、大東町子ども読書会（平成十八年、大東）、ラ・ブック（平成二十九年、加茂）に続き三回目です。ボランティアにより雲南市の子供たちの健全育成が支えられています。

令和の平和



平成から令和へと年号が変わりました。明治以降、大正、昭和時代と日本は大小様々な戦争に関係してきましたが、平成は戦争のなかった唯一の時代となりました。平成と令和をつなげてみると「平和」と読み取れます。令和の時代も引き続き平和でなければなりません。

現在、世界を見渡すと核兵器開発や各地で大きな臭い衝突が相次ぎます。また、貿易（経済）摩擦がいつ武力衝突に変わるかわかりません。命と財産、平和を守るのは政治の仕事です。今年も雲南市戦没者追悼式、永井隆平和賞発表式典が予定されています。平和の尊さを考える機会となります。

◇戦没者追悼式（七月五日 ラメール）
◇永井隆平和賞（九月八日 アスパル）

プレミアム付き商品券

本年度十月に予定されている消費税増税の影響緩和策としてプレミアム付商品券が発行されます（国庫補助事業でほぼ全国の市町村が取り組みます）。

ただ従前のプレミアム商品券と違い、対象者が①住民税非課税者、②平成二十八年四月二日以降に出生した乳幼児のいる家庭、という条件があり全員が対象ではありません。該当者は市内で約一万人と想定され市役所から通知されます。

コトリエット

7/14 OPEN

三刀屋町のみしまや隣に建設されていた中心市街地活性化事業の商業施設（愛称コトリエット）が七月十四日、全店舗でオープンします。ご利用ください。

中林たかしの一般質問

民意の合意形成について

問

民意の合意形成について基本的な考え方を伺う。

答（市長）

本市は合併以降、市民と行政が協働したまちづくりを進めるため地域自主組織をたちあげ、自分たちの地域は自分たちで作りに上げていく取り組みを進めてきた。その後、円卓会議や地域経営カレッジなどを通して民意を行政に反映させてきている。

問

執行部の考える施策と市民が求める要望に相違がある場合の対応は。

答（市長）

政策決定にはトップダウン型、ボトムアップ型がある。首長は選挙で選ばれたからには率先して自治体を引っ張っていく、そしてその考えを議会に諮って理解を得て進める。そのほか円卓会議などを通して行政と市民が同じ目線で情報交換しながら合意形成を図る。

問

民意の施策への反映方法について伺う。

答（政策企画部長）

アンケート調査や各種会合での意見交換、円卓会議を踏まえ政策を立案、予算要求手続きを行う。最終的には議会に諮って決定する。

問

円卓会議や市政懇談会に出席する顔ぶれが固定的になりがちだ。無作為に抽出した市民の出席を求めているかどうか。

答（政策企画部長）

各審議会は市民公募、施策評価の中には無作為のアンケート調査も取り入れている。引き続き努力する。

問

環境基本条例のパブリックコメントの状況、反映方法について伺う。

答（副市長）

一件のパブリックコメントがあった。本市に適した環境施策の推進と環境教育の推進の二点で条例に反映されている。

問

真反対のパブリックコメントが出た時の対応は。

答（副市長）

執行部の意見との調整を図りながら進める。採用できなかった意見に対しては説明し理解を求める。

問

審議会、アンケート、円卓会議等のように使い分けているか。

答（政策企画部長）

特に基準はない。パブリックコメントは実施要項を定めて対応している。

問

住民投票でもしなくてはならない重要な民意形成の場面とは。

答（政策企画部長）

市の将来を決める事案、民意が大きく割れているような事案が想定される。

問

島根原発は稼働をめぐり重大な判断をしなければならぬ時期が来る。原発に關しどう民意の合意形成を図るか。

答（防災部長）

稼働の必要性が明確にされ、市民の十分な理解が得られることが大前提。今後、議会、原子力発電所安全対策協議会（以下安対協）、原子力安全顧問会議、市民への住民説明会を通して議論を重ねる。

問

中電主催の説明会は住民側の出席者が固定化され公平な議論の場とはなっていない。行政として中立な説明会を設営すべきではないか。

答（防災部長）

安対協では公募の市民が参加。アンケート

トや自主組織の会議、ワークショップなど様々な手法で市民の声を頂き執行部の方針を決定、そのうえで議会に諮る。

地域公共交通について

問

地域公共交通網形成計画（以下網計画）の策定方法について伺う。

答（政策企画部長）

雲南市地域公共交通協議会（以下協議会）で審議を進める。

問

協議会のメンバーは。

答（政策企画部長）

行政関係者（島根運輸支局、頓原維持出張所、県土事務所、県交通対策課、雲南市など）、運行業者（バス、JRなど）、利用者（高校など）の代表25名で構成。

問

交通政策に詳しい専門家も加えるべきだ。データ収集などはどう進めるか。

答（政策企画部長）

移動実態調査、ニーズ調査を七月から九月にかけて行う。民意の把握にも努める。

問

網計画における木次線の位置づけは。

答（政策企画部長）

木次線はその中心を担う重要な存在ととらえている。

問

木次線に欠かせないトロッコ列車の更新時期が迫っている。このままでは廃止されるか。JRにお願いばかりでなく様々な提案をして進めてはどうか。

答（政策企画部長）

全く指摘の通り。出された提案を含め検討し交渉を進める。

問

一日当たり平均利用人数が五人未満の市民バス路線はどれくらいあるか。経費はどれくらいか。路線の存廃にかかる市民の合意形成も必要ではないか。

答（政策企画部長）

16路線中8路線が五人未満。経費はバスセンター管理事業費も含め年間総額で2億5,400万円強となっている。市民バス一日当たりの平均乗車人数が1.0を下回る路線は事前に公表し廃止も検討していくことになる。

問

網計画策定にあたっては何を基本にし、何を軸に構想を進めるか。

答（政策企画部長）

木次線ダイヤは高校が基本。そして病院等を加味して市民バス、デマンドタクシーの利便性を考えていく。市民バスは接続改善を、デマンドタクシーは乗降ポイントを中心に取り組んでいる。

問

ヤマハ発動機のスローモビリティは網計画に取り入れていく考えか。

答（政策企画部長）

取り入れていくことになる。

問

網計画を進めるうえで県や他自治体、交通事業者等との連携は。

答（部長）

網計画は協議会で詰めていく予定。メンバーに県や交通事業者、関係機関、住民組織も参加している。

結

都会地を中心にMAAS（モビリティアズサービス）という考え方が広まりつつある。公共交通機関が希薄な地域こそITを利用したサービス提供が必要だ。中山間地こそ必要な考え方として網計画にも生かしてもらいたい。

三年連続でコウノトリが自然繁殖し、愛称も「いぶき」「あおば」「れいな」「ほのか」と決定されました。今年は西小学校内の人工巣塔で営巣しましたが、来年は加茂の人工巣塔でも繁殖を期待したいものです。コウノトリにとっても安心安全な雲南市であり続けたいものです。（たかし）